

PICK UP

Collecting a Sky -風景を渡る糸-

2025年7月19日(土)～8月24日(日)

テキスタイル作家の小林万里子さんと、アンドレア・マイヤーズによる日米共同のアートプロジェクトを紹介しました。関西万博で展示したコラボレーション作品の制作過程の紹介のほか、お二人それぞれの作品も展示。環境問題について考えたり、テキスタイルアートの魅力を発見する機会になりました。



映画「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」鑑賞会

2025年6月13日(金)・14日(土)



第19回川口市美術家協会選抜展

2025年6月18日(水)～6月29日(日)

主催:川口市美術家協会



日米アーティストが語る つくること、伝えること

2025年7月27日(日)

講師:小林万里子、アンドレア・マイヤーズ(2025日米芸術家交換プログラム・フェロー)
モデレーター:前田愛実(国際文化会館/アートプログラム・コーディネーション・マネジャー)
通訳:二階堂里紗(国際文化会館/アートプログラム・コーディネーター)



アート作品を、この世界を「見る」とは?

身边的廃材を使ってテキスタイルアートをつくろう

2025年7月26日(土)

講師:小林万里子、アンドレア・マイヤーズ



もっとくわしい開催レポートはこちら



SNSやってます!

企画展やワークショップ、イベント等、アトリアの最新情報はこちらをチェック!



Instagram [ID: @art_gallery_atlia]



X (旧Twitter) [ID: @artatlia]



Facebook

川口市立アートギャラリー・アトリア

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76

[開館時間] 10:00～18:00 (最終入館17:30)

[休館日] 毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始、施設整備期間

[TEL] 048-253-0222 [FAX] 048-240-0525

[Mail] info@atlia.jp

<https://atlia.jp/>

駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。
JR川口駅(京浜東北線)東口より徒歩約8分

展覧会

ワークショップ

講座

ATLIA NEWS
for TEENSVol.8
(2025.10)

い夏がやっと終わり、心地よい秋風が吹く季節になりましたね。アトリアでは、川口ならではのペーゴマイベントから、水彩や版画、石膏取りの体験講座まで、アートイベントが盛りだくさん! みなさまのご参加をお待ちしています。

特集
p.2-3

企画展「紡ぐ物語」
木島孝文、青秀祐
アーティストインタビュー

「記憶」をテーマに作品をつくる2人の作家を、個展形式で前期・後期に分けて紹介する展覧会。出展作家の2人に、制作のテーマや作品についてお話をうかがいました。



木島孝文「A.R.#997, 998 "Veronica"」
(2023 / #997) (2025 / #998)



青秀祐「DUMMIES Test for CITY(1/2 scale)」
(2025)

展覧会 ワークショップ 講座

色々な画材で描こう 色で魅せるカラークロッキー

11月8日(土) 講師:村山之都(画家)
モデルを見て描く人物クロッキー講座を開催します。水彩絵の具などの画材を使って様々な表現を楽しめる、初心者にも親しみやすい内容です。

铸造文化を楽しもう!陰刻铸造で干支づくり

12月13日(土)、14日(日) 講師:宮原嵩広(彫刻家)
陰刻铸造の技術を使い、粘土の型に石膏を流し込んで来年の干支である午の立体作品を作ります。完成した作品は「アートなお正月展2026」で展示します。

モノタイプ・コラグラフ!いろいろな版画技法を学んで作品をつくろう

12月27日(土) 講師:中村真理(版画家)
モノタイプやコラグラフといった版画技法を使い、ハガキサイズ~A4サイズ程の作品を数点作ります。完成した作品は「アートなお正月展2026」に出品します。

ペーゴマデコワークショップ

~オリジナルペーゴマをつくろう~
11月8日(土)、9日(日) 講師:HAU'OLI MARKET(ハウオリマーケット)
色塗りやバーツでデコレーションをして、自分だけのオリジナルペーゴマを作って遊べるイベントです。

アートなお正月展2026関連ワークショップ

2026年1月10日(土) 講師:玉掛由美子(アートワークセラピスト)

詳細はアトリアHPや広報かわぐちをご確認ください。予定は2025年9月末時点のものです。事情により変更する場合があります。

編集後記

芸術の秋、アトリアでもさまざまな展覧会やイベントを行います。作品と向き合うひとときが、皆さまの日常に新たな彩りを添えますように。

A.R.#99X

展覧会(前期) 10月4日(土)~10月18日(土)

開館時間／10:00 ~ 18:00 (最終入館 17:30) ※最終日 15:30まで
休館日／月曜日(祝日の場合は翌平日) 入場無料

木島孝文

木島さんの作品に共通するテーマを教えてください。

自分の作品は今回のような巨大なもの他に、手のひらに収まってしまうような小さな作品や、木馬やピアノ、バイオリンなどに描いたものなど色々な形態があります。それら全てに共通するキーワードは「人間」です。ただし、単純に「人間とは何か?」や人体のフォルムを使って何かを具体的に表現するといったことではありません。これを“テーマ”と言い切れるほど自分の認識に確信が持てず、しかし何をするにも無視できないこの言葉のことは、全ての作品を通して考え続けています。

元々は日本画を学ばれていましたが、そこから今のような作品となったきっかけなどはありますか?

私の作品の技法は、基本的には日本画の描き方と変わりません。描きたい絵の画面を床や机に平たく置き、水で溶いた絵の具を画面に乗せてゆく…という描き方です。しかし、技法は同じでも素材が違います。日本画で使う岩絵具はとても美しい絵の具ですが、美しい素材を使えば美しい絵が描けるという説ではありません。宝石を碎いて絵の具を作るという点に、自分が大量に使う素材としては距離を感じてきました。もっと身近で馴染みのある素材で思い切り大きな絵を描きたい、という衝動が、現在セメントや砂、タイルなどを扱うきっかけです。美しさというものより、素材が持つ意味やイメージが大切なことです。

今回の企画展の見どころを教えてください。

今回の作品は、高さが2m73cm、幅が91cmのパネルを80枚以上つなげて出来る、巨大な一枚の絵です。これほど大きな作品を制作した理由は「一言で言い表せないもの」をテーマにしたとき、「一目ではとらえられないもの」が有効だと考えたからです。大きすぎて一目で見ることは不可能で、絵を見る人は洞窟を探索するように、自分で歩きながら見なければなりません。その絵の中には色んなものを描き、色んな秘密を隠してあります。ですが、まずは頭を空っぽにして「こんな大きな絵があるのか」と、じっくり見たり写真を撮ったり、楽しんでもらえたらと思います。

略歴

- 2001 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース 修了
- 2015 「18th DOMANI -明日展-」(国立新美術館 / 東京)
- 2019 「Pensar é 'guardar」(Galeria de Arte-Banco de Portugal / ポルトガル、レイリア)
- 2024 「第八回 東山魁夷記念 日経日本画大賞展」(上野の森美術館 / 東京、'18)
- 2025 「METAJ」(神奈川県民ホールギャラリー / 神奈川) ほか多数



「A.R.#496 "Citrus" epitaph」
(2024)



「A.R.#107 "Malus pumila"
Hyperborea」
(2024)



「A.R.#496 "Citrus" Paraíso」
(2015)

企画展

紡ぐ物語

ARTIST
INTERVIEW



掲載作品と展示の出品作品は異なります。



DUMMIES

展覧会(後期) 10月19日(日)~11月3日(月祝)

開館時間／10:00 ~ 18:00 (最終入館 17:30) ※初日 13:00 から
休館日／月曜日(祝日の場合は翌平日) 入場無料

青さんの作品に共通するテーマを教えてください。

私の作品は、自分の心に強く残るものの記憶を元に制作しています。そしてその作品をてがかりに、私自身がどういう人間なのかを振り返ります。だから、私は自分の作品を「ひとりごと」のようなものと考えています。皆さんも昔撮った写真を見返して、「~だったなあ。」なんてその時のことを思い出したりしませんか? 皆さんのが写真を見返して昔を思い返すように、私は、自分の作品を見て、自分自身を見つめ返しているのです。

元々は日本画を学ばれていましたが、そこから今のような作品となったきっかけなどはありますか?

私は日本画を学ぶ中で、絵や作品というものを細かく分けて考えました。そうした時、絵や作品は様々な材料でできていること、その材料を使うための様々な技術があることを知りました。さらにそこから、様々な材料や技術を自由に入れ替えることもできるのだと気づいたのです。そうした結果として、皆さんのが想像するような日本画ではなく、今のような作品へとたどり着いたのです。

今回の企画展の見どころを教えてください。

今回の展示では、自分の記憶にある大切なものをダミーバルーンにして展示します。ダミーバルーンというのは、本物と同じ大きさで作る、本物と同じように見える風船のことです。ここで重要な事は、本物と同じ大きさであること。そして風船に描かれているものは、私が想像で描いたものではなく、実際にあるものを描いたということです。このことを知ってもらったうえでさらに、作品が何でできているか、何で描かれているのかを考えてみてください。また新しい気づきがあると思います。

略歴

- 2004 多摩美術大学絵画学科日本画専攻 卒業
- 2021 個展『アッセンブル・模型・ドキュメント・実態』(青森県立美術館コミュニティギャラリー)
- 2023 青森県立美術館コレクション展 2023-1 特別企画 青秀祐×大森記詩 ARMORY SHOW SITE-A:Damage Control (青森県立美術館)
- 2024 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 つらなりのはらっぱ(青森県立美術館)
- 2025 個展『DUMMIES』(msb gallery) ほか多数

青秀祐